



会報

# 札幌くらぶ

2017年7月 第79号

編集・発行／札幌くらぶ 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付  
ホームページ <http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/>

## 札幌定演600回おめでとう！

札幌くらぶ 会長 上田文雄

この6月定期が開演以来600回目を迎えた。札幌の楽員をはじめ法人、財政的な支援を続けてこられた企業・団体・篤志家の皆様、そして何より音楽を、札幌を愛して演奏会場に足を運び続けた多くの聴衆とともに喜びお祝いを申し上げたいと思います。

敗戦から16年しか経過していない昭和36年7月、美しい音楽の感動を求める市民の歓迎のもとに札幌が誕生し9月に第一回定演が華々しく開催されて以来、絶えることなく56年間600回を数えること自体に感動を覚えます。599回も601回もそれぞれの重みがある。でも、やっぱり600回は特別な感情を持つのはなぜだろう。人それぞれだが「けじめ」というものを感じるからでしょう。楽員の皆さんにとって楽団が歴史を重ねていることに誇りを感じて頂くことはもちろん、聞き手にとっても来し方を考える特別な機会になるはずですよ。



私にとつての札幌は、幕別というごく小さな町で生まれ育ち、中学2年生になった昭和37年9月、隣町である帯広の市民会館が柿こら



2017年6月10日札幌交響楽団600回定期演奏会

札幌交響楽団事務局提供

けら) 落し、当時まだ「札幌市民交響楽団」という名称の「札幌」を初めて聞いたことに始まる。吹奏楽部に所属しまだ弦楽器の生の音を聞いたことがない少年がそこにいた。やっと手に入れたポータブルプレイヤーで一枚きりしか持っていない

てくれた管弦楽の調べ、アイネクラ イネの弦の深く心地よい響きに驚愕し興奮した覚えが鮮明に思い出される。その時から札幌は「私の札幌」となった。  
札幌に住むようになって40年が過ぎた。時間の許す限り市民会館・厚生年金会館そしてキタラへと足を運んだ。キタラという恵まれた演奏環境のなかにひと時身を置いて札幌の演奏を聴く豊かさ、幸せ感ほ他に代えがたい。だから、「札幌くらぶ」をつくり札幌と幸せな時間を共有できる仲間を増やしたいと思つた。それから21年も活動は続いている。  
モーツアルトの3大交響曲を一度に開けた600回目の定演はボンマーさんの丁寧で熱のこもった演奏に聴衆は好感を持ったことだろう。私もとりわけ美しく伸びやかな弦の調べを存分に楽しむ事ができた。  
ただ、私は「600回目」はもっと祝祭的演奏会であつて欲しかった。モーツアルトの演奏編成では楽員が全員参加とはならない。みんなで楽しみ祝うという雰囲気は欲しかった。いつもとは違う特別感、これからの札幌もよろしくという感謝と元気を込めた、全員参加の楽曲でにぎにぎしく、そんな思いを少しだけ持った。ほぼ10年に一度のことである。生きていられるかどうか。700回目の定演に期待したい。札幌ががんばれ、おめでとう600回。

600回定期を終えて

コンサートマスター 大平まゆみさんに聞く



すごい幸せでした。今日のモーツアルトは一生忘れることはないと思います。それくらいボンマーさんのモーツアルトは、解釈・想いが非常に素晴らしくて幸せでした。ボンマーさんはこの器楽曲をオペラのようなと言つてます。それぞれの楽器が自由に歌い、全てが優しい感じで弾いてました。  
若い人がどんどん入団してきます。そして皆さん個性的です。だからすごく楽しい中でやっています。若い方の個性を活かしながら、札幌の伝統を、札幌の音をつなげていけたらいいなと思います。どんどん個性を伸ばしていきたいと思います。何よりも多くの方が来ていただけるとに感謝しております。  
(6月10日楽屋にて)

8月10月 定期演奏会 名曲シリーズ

# 演奏会を楽しく聴くために

八木幸三 (札幌くらぶ顧問)

## 第602回定期演奏会

8月25日(金) 19:00

8月26日(土) 14:00

指揮 ユベール・スダーン

独奏 札幌首席奏者

関美矢子 (オーボエ)

三瓶佳紀 (クラリネット)

坂口 聡 (ファゴット)

山田圭祐 (ホルン)



ユベール・スダーン ©Hubert\_Soudant

### ベートーヴェン

#### 序曲「レオノーレ」第3番

ベートーヴェンが完成させた唯一のオペラ「フェデリオ」は、作曲家が9年の歳月を費やし「人間解放」という高い理念を現出させた傑作だ。政治犯として捕らわれた夫を救出するために妻レオノーレが男装してフェデリオと名乗り監獄へ

関美矢子 ©佐藤雅英



三瓶佳紀 ©佐藤雅英



坂口 聡 ©佐藤雅英



山田圭祐 ©佐藤雅英



侵入、悪役ドン・ピツァロの犯罪をあげくという物語。「まさに妻は強し」だ。このオペラの序曲も4曲が作曲され、今回演奏される「レオノーレ」第3番は、1806年に二幕ものに改められた第二版でつくられた。

### モーツァルト 協奏交響曲

モーツァルトは協奏交響曲と名の付くものを2曲書いている。1曲目は4本の管楽器のために書かれ、2曲目はヴァイオリンとヴィオラのためのもので、いずれも変ホ長調で書かれている。今回演奏される管楽器のための協奏交響曲は、作曲家がパリ演奏旅行で、ちょうどそこに

ためにより作曲された。自筆譜が紛失した後、20世紀に入り筆写譜が発見され、この名曲は蘇った。パリ風の典雅で豊かな響きを放つこの名品が、札幌管楽器の精鋭たちで聴けるのは大きな魅力である。

### フランク 交響曲

作曲家には、喜怒哀楽が激しく、自己中心的で自己主張の強い人物が多い気がするが、フランクは真逆の人で、信仰心が厚く聖者のような静けさをたたえた人物だった。しかし、確固とした信念を持ち、当時のフランス音楽界とは一線を置き、衰亡に瀕していた古典主義的な純音楽をフランスに復興することを理想としていた。彼の唯一の交響曲

は、自身がオルガニストでもあったためかオルガンの重厚な響きや深い精神性を秘めている。この曲の大きな特徴は、全楽章を通し3個の動機によって構築される循環形式

になっていることだ。終楽章で、それまでの楽章の主題が再現され全体が統合することで、見事な形式美を創り出している。

## 第603回定期演奏会

9月22日(金) 19:00

9月23日(土) 14:00

指揮 下野 竜也

チェロ 宮田 大

### スッペ 喜歌劇

#### 「ウィーンの朝・昼・晩」序曲

今で言う映画音楽やTVドラマ音楽など商業音楽を手がけたスッペは、ウィーンで多くの劇付随音楽をつくり、「オペレッタの父」と呼ばれるほどであった。「真夏の夜の夢」をはじめ、約二百あまりの喜劇、民話劇、祝祭劇に音楽を付け、時には5日で1本の舞台劇の音楽を完成したと言う。この曲は、彼の最もポピュラーな序曲で、総奏による勇壮な導入に続いて、独奏チェロの甘く切ない旋律の後、明朗で華やかなクライマックスが気持ちを高ぶらせてくれる。

### グルダ

#### チェロと吹奏楽のための協奏曲

ジャズの分野でも高い評価を受けた天才ピアニスト、フリードリヒ・グルダが、ハインリヒ・シッフの委嘱により作曲した異色のチェロ協奏曲。5曲で構成されているが、各楽曲間には音楽的な関連性がほとんど無い破天荒な作品だ。雄渾なチェロではじまる序曲は、ドラム、ギターが入った管楽合奏の伴奏で一昔前の歌謡ロック調でノリがある。「魔弾の射手」序曲を想起しそうなホルンではじまる2曲目「牧歌」、瞑想的な独奏チェロが聴ける3曲目「カデンツァ」、ヨーロツパの農村風景が目には浮かぶ4曲目「メヌエット」、そして5曲目の「フィナーレ」は心躍る行進曲で、高揚するチェロとともに楽しいカーニバルの世界へと誘ってくれる。

### ブルックナー 交響曲第1番

人の意見によって自分の考えが変わってしまう人はいるものだ。私も作曲した作品に「ああすれば、こうすれば」と言われると、それを真に受けてしまう。ブルックナーが改訂好きだったことは有名だが、彼の場合分裂気質によるものとか、悪評に敏感過ぎとか、さまざまな理由が挙げられている。そして改訂版が必ずしも優れているとは限らない。この第1番もリッツで初演されたから25年後にウィーンで作り直された。ノヴァークはリッツ版を支持し、現在でもリッツ版を演奏する指揮者は圧倒的に多い。それでは、ウィーン版は劣っているのか。作曲家自身はウィーン大学から名誉博士号を贈られ感謝のしるしとしてこの版を捧げているので自信はあつたはず。改訂までの間、彼はワグナーの影響を受け、推進力みなぎる第1楽章や純美、透明な響きを放つ第2楽章、質朴さ溢れる第3楽章、そして炎のようなフィナーレとブルックナーの特色が充分に感じられるものとなったのでは。さて、皆様のご意見は…。



下野 竜也 ©Naoya yamaguti (Studio Diva)



宮田 大

第604回定期演奏会

10月27日(金) 19:00

10月28日(土) 14:00

指揮 ラドミル・エリシュカ



ラドミル・エリシュカ

■ドヴォルジャーク チェコ組曲

「スラヴ舞曲集」に続いてこの曲は書かれた。バグパイプの演奏のような牧歌的調べで始まる第1曲、田舎での陽光を感じさせる第2曲のボルカ、ボヘミアの民族色漂う朗らかな舞曲が奏でられるメヌエット、フルートの清澄な音色が感傷的に歌う夜想曲、そしてボヘミアの民族舞曲フリアントのリズムによる高揚感が溢れる特徴的なフィナーレの全5曲からなっている。

■ベートーヴェン

交響曲第3番「英雄」

ベートーヴェンに耳の病という悲劇が訪れ、「ハイリゲンシュタットの遺書」が書かれた時期に作曲されたこの作品は、ナポレオンへの献呈を前提としてつくられ極めて精神

性の強い作品となった。この作品によつて交響曲というジャンルは、娯楽的な音楽から作曲家としての評価をも判断するような芸術的主柱となつていった。10年前の尾高ベ

ートーヴェンチクルスでは、弦の硬質な響きと管楽器の柔らかな響きの対称が印象に残る第3番が聴かれたが、今回エリシュカからどんな色彩が放たれるのか大いに楽しみである。

性強い作品となつた。この作品によつて交響曲というジャンルは、娯楽的な音楽から作曲家としての評価をも判断するような芸術的主柱となつていった。10年前の尾高ベ

札響名曲シリーズ

新伝説のフィンランディア

9月9日(土) 14:00

指揮 尾高 忠明  
ピアノ 田部 京子

■グリーグ ホルベルク組曲

「弦楽のための古風な組曲」という副題もあるこの曲は、ノルウェー文学の祖ドヴィ・ホルベア生誕200年を記念して作曲された。典雅であたたかみのある作風は、副題からもわかるようにホルベアが活躍した18世紀のフランス風舞曲やバロック期の舞曲形式を借りてつくられ

ているからだろう。

5曲からなり、特に4曲目「アリア」の耽美な旋律は北欧の清澄な自然のなかで敬虔な祈りを捧げているかのようだ。

■グリーグ

ピアノ協奏曲

グリーグは、ニーナと結婚し女兒が生まれた後コペンハーゲン近郊の農村で閑閑な環境のもとこの曲を書いた。幸福な私生活を反映してか曲は澁刺とした清新な楽想で、ノルウェー的郷土色が感じられる豊かな旋律や和声に彩られている。元々ピアノの名手でもあったグリーグは、この曲をリストに見せ、リストは、初見でこの曲を完璧に弾きこなし、「この調子で進んでいきたまえ！」と賞賛したと言ふ。

■シベリウス 「カレリア」組曲

19世紀半ばにカレリア各地に残つていたフィン人の伝承や歌謡をもとにした叙事詩「カレワラ」はシベリウスの作品にも色濃く影響している。作曲者はカレリアの歴史劇に音楽を付けたが、そこから「間奏曲」など3曲からなる組曲をつくら

た。全体的に明るい楽想で、耳になじみ深い3曲目は、夏の陽光を感じさせる明朗な行進曲で魅力的だ。

■シベリウス

交響詩「トゥオネラの白鳥」

トゥオネラは、カレワラの黄泉(よみ)の国のことである。この国と現世との間にはトゥオネラ河があり、そこに聖なる白鳥が住み、悲しげな歌を歌っている。そんな情景が浮かび上がる物語をシベリウスはオペラにしようとした。しかし、その試みは達成されず4つの伝説曲としてまとめられた。この曲は、他の3曲に比べ圧倒的に演奏される回数が多く、イングリッシュホルンの幻想的な旋律が神秘的な物語世界へと誘ってくれる。

■シベリウス

交響詩「フィンランディア」

シベリウスの母国フィンランドは、六百年にわたるスウェーデンの支配下であり、その後ロシアが自治の侵害をおこなつていった。作曲者の生きた時代は、まさに祖国の民族的自覚の昂揚、独立への願望が背景

にあり、この曲は愛国独立運動の一環としてつくられた劇音楽がもとになつてい

る。金管楽器で奏でられる「苦難のモテ

イーフ」が象徴する

ように初演当初はロ

シアの官憲によりフィンランド国内では演奏が禁止されていた。札響の雄渾な金管楽器の響きに注目だ。

札響名曲シリーズ

遠くイタリアを夢みて

10月14日(土) 14:00

指揮 マティアス・パーメルト

■チャイコフスキー

幻想序曲「ロメオとジュリエット」

チャイコフスキーは、美しきプリマドンナ、デジレーと恋に陥つたが、それは成就しなかった。バラエフは、シエークスピアのこの名作を作曲するようにチャイコフスキーにすすめた時、彼の恋の痛手が作曲することをためらわせたと言ふ。結局、初演は不評でその後改作にめぐ改作で10年後に決定稿ができた。曲は劇的な曲想を持ち、「標題的な内容を持つ音詩風の演奏会用序曲」という意味で「幻想序曲」という題名がつけられている。

■メンデルスゾーン

交響曲第4番「イタリア」

ワーグナーは、メンデルスゾーンを「音による第一級の風景画家」と



マティアス・パーメルト

「ロミオとジュリエット」は、他の作曲家も題材として取り上げているが、CMやフィギュアスケートなどでお聞きになるこの曲も、特徴的な旋律がお馴染みになつてしまつた。プロコフィエフは、米国に亡命し欧州を渡り再びロシアに帰国したが、それまでの前衛的な作風から社会主義リアリズムによる大衆的な作品を書くようになった。15年ぶりに祖国に戻った彼は、モダニズムからロマンティズムに復帰し、この曲で転換期を克服した。

■プロコフィエフ

組曲「ロメオとジュリエット」

「ロミオとジュリエット」は、他の作曲家も題材として取り上げているが、CMやフィギュアスケートなどでお聞きになるこの曲も、特徴的な旋律がお馴染みになつてしまつた。プロコフィエフは、米国に亡命し欧州を渡り再びロシアに帰国したが、それまでの前衛的な作風から社会主義リアリズムによる大衆的な作品を書くようになった。15年ぶりに祖国に戻った彼は、モダニズムからロマンティズムに復帰し、この曲で転換期を克服した。

を「音による第一級の風景画家」と

# ♪ 楽員さんに興味津津！ ⑭ ♪

## ♪ ティンパニ、打楽器首席奏者 入川奨さんに聞く

### ♪ ヴァイオリンからサッカーへ

出身は静岡県です。大学に入るまではずっと静岡にいました。

最初に出会った楽器はヴァイオリンです。母が自宅でピアノ教師をやっている、近くのヴァイオリン教室にもピアノ伴奏者として行ってました。その教室の発表会を聴きに行ったら、「僕もヴァイオリンをやってみよう」と言ったらいいんです。それが小学校1年生になるちょっと前で、そのまま中学2年生くらいまで続けていました。

わが家では、ときどき「入川ファミリーコンサート」を開いていました。父は静岡出身なのですが、北大を

卒業しています。気象予報士の資格を持っていましたので、気象関係の会社に勤めていたのですが、背広を着るのが嫌な自由人でしたので、今は会社を辞めて自分で仕事をしています。その父が趣味でリコーダーを吹いていたので、家族4人でリコーダーカルテットをやりました。僕の出した保育園とか、知り合いの会社のロビーとかで演奏しました。そのうち母と兄はピアノ、父はリコーダー、僕はヴァイオリンを中心にやるようになりました。ハンドベルもやっていました。人前で演奏する機会はこの頃からあったんです。

小学校の時に使っていたヴァイ

オリンは借り物でしたが、中学生になつてはじめてフルサイズのを買ってもらいました。僕は小学4年生からサッカーチームに入つて、3年間びつちりやっていました。だから、ヴァイオリンの練習はほとんどやっていないで、先生が自宅にレッスンに来る時だけ楽器をケースから出すといった状態でした。今思うと申し訳ないことです。実はその後まもなく、ヴァイオリンはやめてしまいました。

その時買ってもらったヴァイオリンは今も持っています。趣味でヴァイオリンを弾いていらつしやる楽員さんたちとも音出しをしたことがあります。中学校でもそのままサッカー部

小学校1年生。ヴァイオリンを始めたばかりで、矯正器具を付けています。



に入るつもりだったのです。ところが体験入部の時、顧問の先生に「なんでそのボールを使うんだ」といきなり怒られて、面食らつてしまいました。使つてはならないボールがある。

### ♪ 打楽器のソロをやりたくて

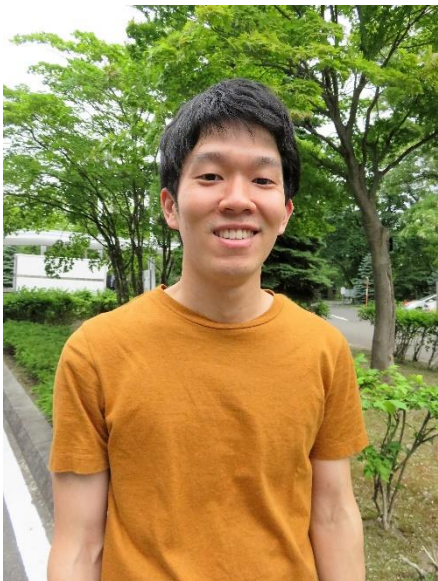
吹奏楽部では打楽器にはまったく、中高ずつと続けました。私立の中高一貫校なので、顧問の先生も創部の時から30年以上同じ先生でした。演奏会は年に2回、学園祭と定期演奏会だけだったので、のんびりやっています。

行つてみようと言うので、そこに行つてみることにしました。そのままサッカー部に入っていたら、また違った今になつていたかもしれないね。

あつたらしいけれど、僕にはありませんでした。親もまさか次男坊もそつちへ行くとはい思つていなかったようです。

ることも、使えるボールがどこにあるかも知らなかったのに。それでサッカー部はやめたんです。その時一緒に体験入部していた同級生が、お兄さんがいる吹奏楽部に芸大の入試は小太鼓、マリンバ、ティンパニの三つの専攻から一つ選んで受けることになっていました。僕は小太鼓で受けたのですが、1次試験は一つ打ち、二つ打ち、五つ打ちなどの基礎的な技術とマーチの課題、それと「浜辺の歌」を任意の楽器を使ってリズムを取りながら歌うという試験でした。2次試験は芸大ならではの自由表現の試験もあり、「2分以内で任意の楽器を使って自由に何かしてください」というものでした。僕は仮面をつけてタンバリンを叩きながら踊りました。3次試験はソルフェージュとピアノの試験です。ここで初めてセンター試験の点数が見られます。芸大では、1次、2次が通らないとセンター試験の点数は見てもらえないんです。

## 音程はたえず耳で



### プロフィール

静岡県静岡市出身。東京芸術大学を卒業。静岡音楽館 AOI 主催の第16回「静岡の名手たち」オーディションに合格し、同コンサートに出演。2014年1月から1年間、ドイツ・ハンブルクにて北ドイツ放送交響楽団ソロ・ティンパニ奏者を務めるシュテファン・キュルリス氏のもとで研鑽を積む。これまでに松倉利之、竹島悟史、藤本隆文、西川圭子、宮崎泰二郎、シュテファン・キュルリスの各氏に師事。2017年1月1日札幌交響楽団に入団。

高校の初めてのころは、音大なんて全然考えていませんでした。ピアノをやっている兄（東京芸大卒）は早くからそういう気持ちがある

高校1年生の時に交換留学でオーストラリアに行ったことがあって、外国ついでいいなあ、英語をもっと勉強しようかなと思つたこともありました。それでもやっぱり、打楽器のソロをやってみようというのにはあつたんです。打楽器をたくさん並べて演奏するソロなんです。これは普通の大学ではできないなや、やはり音大じゃないか、と思うようになりまして。音大受験を決めたのは高校2年生の時です。大学は東京芸大を受けましたが、



入川ファミリーのリコーダーコンサート。小学校高学年の頃。

## ♪ 北ドイツのブラームスにひかれて

芸大を卒業してフリーで2年弱活動した後、ラジオで偶然聞いた北ドイツ放送交響楽団のブラームス交響曲4番がとても耳に残りました。こういうティンパニを演奏する人の所に行ってみたくらいという思いでハンブルクに1年間行きました。

先生の名前はシュテファン・キユリスというのですが、ラジオで姿が見えないから本当は彼がやっていたのかどうかは分かりません(笑)賭けのような部分もあったかも知れません。

1年の間に大変なことはいろいろありましたね。というのもも学校に入っていた訳ではないんです。色々な条件が合わず、学生にはなれないというので、ワーキングホリデーでの滞在です。それでも個人的に来るなら見てあげるからと言ってくれたお蔭で決心が出来たように思います。練習も大学でずっとさせてもらえたのも有難かったです。

ドイツ語も大変でした。行く前に勉強しましたが、住んでみるとやっぱり違うんですね。オーケストラのリハーサルを見に行った後、先生と話しながら歩いている時に「私の言っていることわかる？」と言われて、何を言われているか分からないことが結構あったので、「ちょっとわかりません。」と言ったら、「(はあ)と深いため息をつかれてしまいま

って指笛をピューピュー鳴らして、音楽に乗ってくれます。いいと思わなかったら、ダイレクトに感情を表してきます。日本人のように相手の気持ちや推し量ったりしないで、どんどん自分を出してきます。それがやはり強みなんですね。

## ♪ 超名器を使っています

2015年の1月に日本に帰ってきて、またフリーの状態で東京にいました。その年の7月に札幌のオーディションがありました。地方ならば、祖父のいる京都か、父が8年間いたことのある札幌がいいなと思っていました。そこにおさまることができて、本当に幸せだと思っています。

家にはティンパニはありませんから、練習する時はゴム製や化学繊維を張ってある練習台を使います。家では楽譜を見て、イメージトレーニングが多いですね。打楽器は例えば30小節ぐらい休んで急にボンと出てきたりします



ドイツの名器。中央にペダル。手前にハンドルレバー。



中央のペダル。それと連携して上にゲージがある。G、A、Hなどの印と矢印が見える。



このハンドルレバーで微妙な音程を調節する。



小学校6年生。サッカー静岡大会

してずらしていきます。

音程はペダルで変えています。4台の楽器の大きさがそれぞれ違うので、1台ごとにどこからどこまでの音程が出るのかというゲージがあって、ペダルと連動してゲージの矢印が動くようになっていきます。ゲージは目安でしかないのですが、自分の耳で音を確かめて調節

します。これが微妙なんです。特に本革は湿度とか照明に影響されるので、もっと細かく微妙に音を変えられるように手元にハンドルレバーがついています。曲の途中でそのレバーを気持ちちょっと緩めたり張ったりしています。音程が悪いと自分自身もやりにくいの

で、音程調節をたえずやっていると、演奏中はなかなか忙しいです。僕の並べ方だと左が低い音で、大きい楽器。右に行くほどだんだん小さくなります。これはアメリカ並びと一般的には言われていますが、ジャーマン並びと言われているのは真逆なんです。ドイツとオーストリアでは100パーセント右側の方が低音になります。芸大時代はアメリカ並び、ドイツにはジャーマン並びにしていたのですが、札幌に入る時にまたアメリカ並びに戻しました。アメリカはピアノの鍵盤と同じように、自分の左側に低音

## ♪ いろいろな運動でリフレッシュを

札幌に来てようやく1年ほど経ちましたが、静岡と違うのはやっぱり雪。静岡は全く降らないですからね。札幌は住みやすいです。都会だけれど、都会過ぎないし。体調管理には気をつけないといけないと思います。僕はちょっと飲みすぎてしまうことがあるんです。お酒はなんでも飲みます。これからは体を動かすことが課題ですね。以前は時々友達とフットサルをやっていたのですが、今はやっています。普段なるべく歩くようにしています。運動不足気味で

す。実家にいる時はマウンテンバイクのような自転車に乗っていたので、これから引越したら自転車を買おうかなと思っています。芸森にもそれに乗って行ってみるのもありかなと考えています。いい運動をしてリフレッシュしたいですね。札幌のティンパニ奏者として皆さんに認めてもらえるまでに時間はかかるかなと思っています。自分もやっていること、やりたいと思っていることを、時間をかけて理解して貰えるように努めたいですね。

担当/井上 村山 塚田 中居

第18回札幌くらぶサロン

報告総会の後、チエロでバッハを堪能

チエロ独奏ってかっこいい

TAKETSU MEMORIAL SALON 第18回札幌くらぶサロンが6月3日(土)に豊平館広間で開催され、54名の方々に参加いただきました。

今回はサロン開催の前に2017年度札幌くらぶ総会が報告総会という形で開催されました。この総会にしましては同封されています別紙をご参照ください。

サロン第一部は「サロンのミニコンサート」で、チエロ奏者の小野木さんによる演奏です。小野木さんは2007年にPMFAアカデミーとして参加、「新進演奏家育成プロジェクト・オーケストラ・シリーズ



無伴奏チエロ組曲第4番の熱演

今回はチエロ独奏で3曲、まず1曲目はバッハ作曲の「無伴奏チエロ組曲第4番」。巨大で難解で演奏もむずかしいと言われているこの曲を堂々と演奏されました。気持ちが出つたりとしてとても落ち着き、チエロの音色はまるで「心のサプリメント」だなあ・・・。

2曲目はクラム作曲の「無伴奏チエロソナタ」、副題が「To my mother」と付いていて、美しいメロディーも出てくる比較的聴きやすい現代曲でした。

最後は篠敏郎作曲「BUNRAKU チエロ独奏のための」という曲で、弦を指ではじく事で三味線の音を表しているとのこと。ほとんど

第2部は恒例の団員さんを囲み「交流パーティー」。会員の家登さんの乾杯で始まり、「チエロの生演奏をこんなに身近に聴けて素晴らしいと思った。」との挨拶もありました。

小野木さんが参加しているチエロ5人組ユニット「チエロ・アンサンブル・エクスタシー」のCDをお持ちいただいた上に、ご購入の方達にはサインまでも！あつという間に完売してしまいました。さらには今回は「札幌国際芸術祭」の実行委員会事務局長熊谷様にもご参加いただき、テーマ「芸術祭ってなんだ？」

の方が初めて聴いたと思いますが、日本人ならすぐに理解できるような音楽でした。演奏が終わった後の「ブラヴォー！」がすごかったです。もちろんアンコールも演奏していただきました。豊平館で聴いているとまるでバダペストにいるような感覚になり、とても幸せな時間でした。

小野木さんのCDもたちまち完売

の詳しい案内がありました。これから訪れる7月と8月の「パシフィック・ミュージック・フェスティバル」と「サップポロ・シティー・ジャズ」とこの芸術祭が盛況のうちに大成功する事を札幌市民として願いました。

札幌からは専務理事の永井健さん、ヴィオラの青木晃一さんと鈴木勇人さんにもお越しいただき、はるばる横浜から参加の社会員には差し入れを持参いただき、おかげさまで今回のサロンも大変盛り上がりました。

最後に小野木さんにお話をお願



上田会長の挨拶



会員 家登さんの乾杯

いしましたが、「初めて参加させていたでいて、札幌くらぶの皆さま、定期会員の皆さま、札幌を支えて下さる方々と触れ合える機会は大切だなあと感じました。」と暖かいお言葉をいただきました。趣味のルーアー釣り(川釣り)の話もできて個人的にも盛り上がりましてしまいました。宴もたけなわの中、西川副会長の中締めで終宴。

次回、第19回のサロンはこの豊平館にて9月18日



次回サロンのご案内

9月18日(月・祝) 午後6時より 豊平館2階広間にて

お待ちしております

## ヴァイオリンに魅せられて



札幌副首席奏者 小林美和子さん

雨降る日はヴァイオリンの音色が心地好い。憂鬱な気持ちに寄り添って慰めてくれる。一人でやりきれなさを抱えている時、静かに聴く。

— 病室の窓越しの空は、雲で被われ、どんよりとしていた。二人部屋、隣の寝息がかすかにしている。熱でぼんやりした私の耳にヴァイオリンの美しい響き（\*）が聴こえ、はっとしてラジオの音を少し大きくした。イヤホンではあったが、心に沁みる。涙が溢れ止まらなくなった。初めてのことだ。三十歳を少し過ぎた夏に入院した。 —

退職後の今、生演奏を聴くことが楽しみとなっている。全身に音楽を浴びて帰宅するとリラックスしてぐっすり眠れる。健康の源である。札幌の演奏会は、私の身体の細胞を活性化してくれるビタミン剤である。

\*ブルッフ作曲…

ヴァイオリン協奏曲第1番

ト短調作品 26

指揮…ベルナルト・ハイティンク

ヴァイオリン…

イツァーク・パールマン

文・絵 会員/浅井律子

地震1年後に熊本の「復活」を祈るコンサートの報告  
熊本の復興を願って

指揮 山下一史



熊本の復興を祈るマラーの「復活」は四月十四日（金）午後八時、熊本県立劇場コンサートホールに響き始めました。八時ちょうどに指揮棒が振り下ろされたのは、プレ・イベントが終って切りのよい時刻に演奏を始めようとしたからではありません。前震が発生した午後九時二十六分に合わせて演奏が終了し、拍手を受けることなくそのまま黙祷に入るためのものでした。

この日の「復活」は、いつも私が聴いている「復活」とは明らかに違っていました。特別の意味を持つコンサートであるという、多少の先入観があったのかも知れませんが、第三楽章で強打されたティンパニも、

第四楽章冒頭で合唱に溶け込むように歌い始められ、しだいに輪郭を表していたアルトのソロも、ひとつひとつが確実な意味を持った音楽に聞こえました。そして何よりも満を持して、圧倒的な力で歌い上げられた「復活の賛歌」は感動的で、演奏者と聴衆あわせて約二千百人が一体となった瞬間でした。演奏が終ったあとはそのまま静寂、そして黙祷となりました。それは長い黙祷だったような気がします。ステージの上でも下でも、涙をふく姿がだんだん多くなっているように見受けました。犠牲者への追悼と復興への思いが凝縮された時間であるように感じられました。

この日演奏したのは、百十数名で特別に編成されたオーケストラと九州の有志百七十名による合唱団でした。このオーケストラは九響の楽員が中心になっていましたが、そ

のほか日本各地のオーケストラのメンバーと熊本県内の音楽家などが五十名ほど参加していました。さらにはウィーン・フィルのメンバー四名も加わっていました。わが札幌からは島方晴康さん（ホルン）、山下友輔さん（トロンボーン）、白子正樹さん（クラリネット）三人の顔が見えました。島方さんはバンドとして演奏していましたので、ステ

意されたものなのでしょう。舞台裏で演奏されていたのはホルン（3本）とトランペット（4本）だけではなく、打楽器（ティンパニとトリアングル）も加わっていて、これも意外でした。

県立劇場からの帰りに、ライトアップされていた熊本城に立ち寄りました。城内にある「加藤（清正）神社」から間近に見た天守閣には修復のための鉄骨が取り付けられていて、痛々しい姿なのですが、それでもなお毅然としているように感じられました。熊本城が石垣も含めて完全な姿に戻るのには二十年後、天守閣の外観は二年後までに修復されることでした。熊本城が元の姿に戻った時、はじめて熊本が復興したことになるのではないのでしょうか。



会員/村山英朗



トロンボーン山下さん、クラリネット白子さんが写っています。ホルンの島方さんはバンドで舞台裏での演奏です。

# ありがとうございました

札幌フルート奏者  
山崎衆さん



山崎さんは札幌で30年間演奏を続けてこられました。3月末をもって退団されました。札幌くらぶから感謝をこめて花束を贈呈しました。

札幌ヴァイオリン首席奏者  
大森潤子さん



大森さんは11年間首席を務め、7月末に退団です。『札幌くらぶという強力な団体に応援してもらえたことは私たちの活動にとって、本当にありがたいし素晴らしいことだと思います。』

## ラドミル・エリシユカ札幌名誉指揮者



### 名残惜しい最後の指揮

毎年春と秋の2回はエリシユカさん指揮なのに、今年は10月に一度だけなのでがっかりして居たら、突然それが札幌での最後の指揮に

なるとのこと。2006年の「シエラザード」で感涙に咽び、2013年4月のドヴォルジャーク8番では聴き慣れたこの曲でこれほど

涙があふれるとは・・・大勢の人が涙をふきながら帰途についていた。札幌のエリシユカ・ファンは彼を愛してしまつたようだ。毎回、暖かい拍手がいつまでも止まない。楽員の中にはエリシユカと親しみをこめて言う若い人もいて、彼のチェコの家に遊びに行った楽員の楽しかった話も聞いたことがある。「エリシユカを知らずして

札幌を語ることなかれ」

札幌くらぶ内の新しい諺？

10月27日28日のチケットは早く買っておきましょう。二日とも大ホールを満席にしてエリシユカさんを送りましょう。

会員／井上明子

## スタッフの活動報告

- 〇4月22日(土) 「札幌市内中学校吹奏楽部招待事業」 札幌中 28名
- 〇4月27日(木) 会報「札幌くらぶ」第78号発行 第1回運営会議
- 〇5月20日(土) 「札幌市内中学校吹奏楽部招待事業」 伏見中 18名
- 〇5月29日(月) 第2回運営会議
- 〇6月3日(土) 札幌くらぶ総会 第18回札幌くらぶサロン
- 〇6月8日(木) 札幌練習見学会
- 〇6月10日(土) 「札幌市内中学校吹奏楽部招待事業」 前田中 32名
- 〇6月26日(月) 第3回運営会議 (詳細は札幌くらぶホームページで)

伊福部昭は北海道が世界に誇る作曲家である。昨年は生誕100年で東京では盛大な記念コンサートが催され、氏の曲が数多く演奏されていたが、地元北海道では釧路で行われただけで道都札幌では一度もなかったと記憶している。演奏会を期待していた私としては大変残念な思いをしていました。

先日5月14日の日曜日に時計台ホールで、グループ団体歌コンサート「北海道の団体歌 伊福部昭を中心に」を聴きに行ってきました。団体歌とは、県や市町村、学校や会社などのために作曲された歌で、全国各地のこれらの歌を保存するため「グループ団体歌」が結成されたそうです。今回は伊福部の「北海道賛歌」が最初に歌われ「帯広市市歌」「音更町町歌」や「琴似小学校校歌」

会員／稲村 靖彦

## 伊福部昭を想う

など校歌が十数曲、北海道出身の早坂文雄と佐藤勝、それに黛敏郎、三枝成彰の校歌など全30曲が、素晴らしい声のバリトン歌手により演奏されました。

伊福部作曲の校歌は「賛歌」と同様どれも堂々として北海道の大地を感じさせるもので、それは芸術歌曲と言えるようなものでした。

札幌はこのところ武満作品の演奏で賞賛されていますが、素晴らしいことですのでこれからも続けてもらいたいが、伊福部作品は十年位前に「リトミカ・オステイナータ」の名演奏に感激して以来聴いていません。どうか氏の作品を一年に一回は取り上げて欲しいし、武満作品より以上に取り上げるべきではないでしょうか。

## 編集後記

この号の原稿締め切り後に第604回定演の曲目が変更になりました。ご了承下さい。(編)

毎日の生活に欠かせないのは音。風の音、雨の音などいろいろな音に囲まれている。音楽もそのひとつ。若いころ、グループサウンズに夢中になり、歌謡曲演歌と続き、今はクラシックに。ジャズもいかな。昔こんなことがあった。娘が小さいころお昼寝中に、ナベサダの軽快な音楽に何を感じたのかムクツと起き上がり踊り始めた。大笑い。音は楽しい。(幸)

スタッフ会議は、月一回夜六時から始まる。仕事帰りの人もいるからだ。以前は、十人も集まればよい方だった。今はスタッフも入れ替り、集まる人数も二十名程になった。意見が飛びかい楽しくもあり頼もしくもある。私は専属パティシエ(?)になり、甘いお菓子を提供しているが、そろそろお菓子の種もつきてきた。(横山)

札幌定期演奏会600回おめでとう！モーツァルト交響曲39・40・41連続演奏会、聴きごたえがありました。アンコールでもいいので、最後にすべての楽員さんが舞台に出られるととってもよかった。(よしただ)

よかった。(よしただ)